

令和元年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版：様式】

1 津山市重点取組

津山市立向陽小学校

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
学びのサイクル(津山モデル) 授業改善と家庭学習をつなぐ つまずき解消	教員	家庭学習の定着・充実	年度末(学期ごとに検証)	・宿題の意義を繰り返し児童や保護者に伝えていく。 ・宿題を授業の中で実際にさせてみることで、量や時間を調整する。宿題の量や内容、取り組ませ方を研修し、共通理解を図るとともに必要に応じて変更する。 ・宿題100%ウィークを設定し定期的にチェックを行っていく。月に一度、家庭学習の取り組み方を振り返る週間を設ける。結果を児童・保護者に伝えていく。 ・毎月、自主学習ノートを校内に掲示し表彰し奨励することで意欲につなげる。 ・補充学習等で学習した内容を週末課題にし、定着を図るとともに、次の学習に生かせるようにする。	全学年…宿題提出100% …学年標準時間達成児童80% 3年生以上…自主学習ノートの積極的な活用
生活習慣の改善 スマホ対策と家庭学習の充実(児童会・生徒会や家庭等)	教員・児童・保護者	メディアコントロール	年度末(学期ごとに検証)	・スマホやゲームなどメディアとの付き合い方を児童や保護者に伝えていく。 ・月に一度、メディアとの付き合い方を振り返る週間を設ける。メディアと上手に付き合った効果などを児童・保護者に伝えていく。 ・長期休業中には、保護者の協力を得て、「1日テレビを見ない」や「夕食中はテレビを消す」などの「NOテレビ・NOゲーム・NOスマホDAY」を設定する。家族の会話が増えたなどの効果児童・保護者に伝えていく。 ・読書の奨励も合わせて行っていく。	平日、テレビ等の視聴時間2時間以内…4.5% 普段読書を全くしない児童を減らす

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】 全国(6年) ○国語は全国平均と比べると正答率が低く、領域別に見るとすべての領域で全国平均を下回っている。 ○算数は全国平均と比べると正答率がやや低いが、経年比較すると正答率が上がってきている。 ○無回答率については、昨年一昨年に比べ、減ってきている。</p> <p>県(3~6年) ○3年生は、国語・算数ともに県平均と比べると正答率が高い。 ○4、5年生は、国語・算数ともに県平均と比べると正答率が低いが、経年比較すると正答率が上がってきている。 ○領域別に見ると、全体として国語は「書くこと」、算数は「数量関係」に多くの課題がある。</p> <p>特徴的な傾向を示した問題 ・国語では、『情報を読み取り、文章を書く問題』の正答率が県平均よりかなり低い。 ・算数では、『グラフを読み取り、それを根拠に説明する問題』の正答率が県平均よりかなり低い。 ・全国や県の正答率が低い問題に対して、正答率も低いが無回答率が高い。</p>	<p>【学習状況調査の結果】 ○家の人から言われなくても、進んで勉強している児童の割合が、57.5%で県平均42.8%に比べて多い。 ○家庭での学習時間が1時間以上の割合が、5年生72.5%6年生62.1%で、県平均5年生74.2%6年生66.1%並みに伸びた。 ○テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていた児童の割合が52.5%で県平均70.2%と比べて低く、普段、テレビやゲームを2時間以上(52.5%)4時間以上(30%)、インターネットなどのメディアにふれる時間3時間以上(17.5%)と県平均と比べて大変多い。 ○平日、家庭で読書を全くしない・10分より少ない児童が合わせて約半数いる。これは全国平均(34.3%)と比べて大変多い。 ○自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることは難しいと感じている児童が多い。 ○学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動を苦手としている。 ○学校に行くのが楽しいと答えた児童の割合が5年生(30%)6年生(21.6%)、県平均5年生(56.4%)6年生(56.2%)と比べてともに低い。 ○自分が住んでいる地域が好きな児童(62.5%)、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童の割合(2.7%)が県平均と比べて低い。</p>

成果	課題
<p>○各教科の指導法やノート・板書の書き方など、学校全体でそろえるべき事項を確認し、徹底を図ることで系統だった指導ができた。 ○補充学習の時間を設定し、全職員で児童の学力向上に取り組んできた。補充学習はA基礎基本とB活用力の2種を設け、東書データベースを活用しながら指導してきている。 ○日々の授業の中に取り入れていけることを共通理解し、授業の中で既習事項の定着や活用、つまずきの解消と苦手の克服に向けて授業改革に取り組み始めることができた。少しずつ記述することへの抵抗感が減ったり、記述課題の解答ポイントがわかってきたりしている。 ○朝学習の時間を効率よく活用し、基礎学力の定着と既習事項の反復に取り組んだ。教材を統一全校で取り組んできた。今後、教材の検証をしていく。</p>	<p>○自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと感じている児童が多い。また、自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を整理したり話し合ったりするなどの学習活動を苦手としている児童が多い。 ○普段、テレビやゲーム、インターネットなどのメディアにふれる時間が大変多く、全く読書しない児童も多い。メディアコントロールの力や読書の習慣を身に付けさせる必要がある。</p>

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
書く力の育成	3学期末	全学年…求められている条件を理解し、それに合った文章を書くことができる。 …「書くこと」領域の問題の正答率を県平均並し、無回答も減らす。	・授業の中で書く時間を確保し、自分の言葉で書く習慣を身に付けるようにする。まとめや振り返りを書く際には条件付き作文を書かせるようにする。 ・文法事項や表現スキルの指導を充実させる。 ・授業や家庭学習でしっかり書く活動を取り入れ、抵抗感を減らしていく。週末課題で書く問題や日記に取り組ませ、月曜には解説をするようにする。 ・月に一度、授業公開週間を設定し、授業づくりや書く力の育成について研修する。					
家庭学習の定着・充実	3学期末	全学年…宿題提出100% …学年標準時間達成80% …平日メディア2時間以内45% …読書習慣を付ける。 3年生以上…自主学習ノートに積極的に取り組む。	・家庭学習の手引きを活用し、家庭学習の効果や意義などを繰り返し児童保護者に伝える。 ・自主学習の内容充実のために参考となるノートを掲示したり、表彰したりして参考にさせる。 ・週末課題で到達度テスト・問題データベースの活用問題や日記に取り組ませる。 ・毎月1週間の家庭学習とメディアについて振り返る週間を設定する。児童に事前・事後指導を行う。また、結果を学年通信等で保護者に伝え、啓発を行う。					
朝学習・学力向上タイムの充実	3学期末	全学年…基礎基本問題の正答率アップ 3年生以上…類似問題に取り組む正答率を上げる。無回答を減らす。	・学力調査の結果から向陽タイムプリントを準備し、朝学習や補充学習で取り組む。個別指導を強化する。 ・計算力・国語力強化週間を設け、基礎基本の定着を図る。達成度から目標設定し、学年末の達成度を確認する。 ・書く活動を多く取り入れ、書くことへの抵抗感を減らすとともに、条件付き作文に慣れさせる。					

※達成度 「S:目標を多く上回った(100%超)」A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」「C:目標をある程度達成できた(60%以上70%未満)」「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組
<p>○家庭学習(宿題)の100%提出を目指し、定期的・継続的に強化週間を設け、きちんと学習に向かう習慣付けをする。 ○「メディアコントロール週間」を実施し、テレビやゲーム、スマホでの動画等の視聴時間を減らすよう努力し、メディアとの上手な付き合い方を考える機会をもつ。 ○チャイムの会を守り、規律ある中でけじめのある学習集団を育て、やるべきことをきちんとやりきることを徹底する。 ○授業の中に見る「聞く」「話す」「伝え合う」場面を意図的に取り入れ、ペア・グループ活動を通して、自分の考えをもち、広げ深める活動を大切にす。</p>

保護者・地域へ理解・協力を求めること
<p>○毎月、がんばりカードで家庭学習とメディアについて振り返る期間とメディアコントロール週間に合わせて「宿題提出100%ウィーク」を実施し、メディアと上手につきあい、家庭学習の時間を確保することの意義を伝えていく。 ○長期休業中やチャレンジハッピーデイを活用して、NOテレビ、NOゲームやNOスマホDAYを設定し、家族でふれあう時間や読書に親しみ時間を生み出す工夫をお願いする。 ○学力調査の結果を個人相談等で直接保護者に伝え、現状を把握し課題克服に向けた取組への理解と協力を求める。</p>